

今月のトピックス

4月に、手足口病から、エンテロウイルス 71 (EV71) が検出されました。EV71 は、他の原因ウイルスに比べて重症の合併症が多いので、今後の動向に注意が必要です。

平成 22 年 3 月 22 日から 4 月 18 日まで(平成 22 年第 12 週から第 15 週まで。ただし、性感染症については平成 22 年 3 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

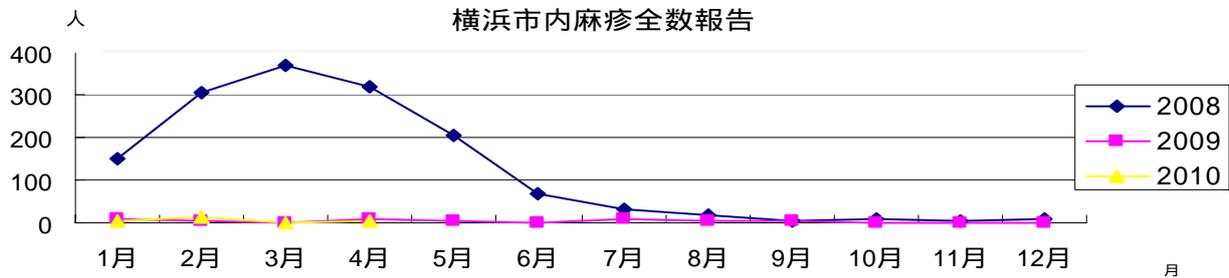
平成 22 年 週 - 月日対照表

第 12 週	3 月 22 ~ 28 日
第 13 週	3 月 29 日 ~ 4 月 4 日
第 14 週	4 月 5 ~ 11 日
第 15 週	4 月 12 ~ 18 日

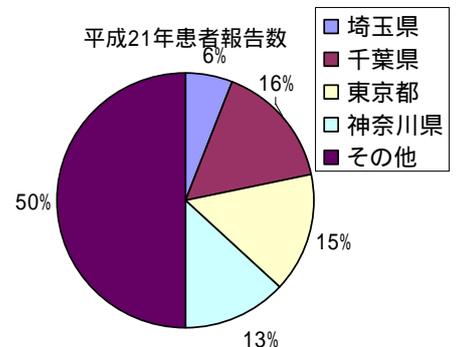
全数把握の対象

- 1 麻しん: 3 例の報告がありました。3 例とも臨床診断に加え検査診断も行われています。麻しんの排除を目指して、麻しん患者が減少していくなかで、検査診断は非常に重要です。麻しん特異的 IgM 抗体検査やペア血清による特異的 IgG 抗体検査等抗体検査が多く用いられていますが、疫学調査のためには、ウイルスの遺伝子型等性状が把握できるウイルス分離や、PCR のような遺伝子診断が望ましく、検査のためには、感染の早い時期に血液、咽頭ぬぐい液、尿といった検体を採取することが求められます。麻しん排除のためには全ての年齢で 95% 以上の抗体保有率が求められますが、平成 21 年度の全国感染症流行予測調査ではこのレベルに達していないのは、0 ~ 1 歳を除くと、10 歳、15 歳のみであり、期、期の予防接種の効果が現れています。

(国立感染症研究所 HP: 麻疹の検査 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/360/dj3606.html>
 抗体保有率 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/360/dj3602.html> をご参考下さい。)



市内では平成 20 年前半の流行後は大きな流行は見られていませんが、平成 21 年の報告では、右の円グラフのとおり、首都 4 県都の患者数が全国の半数を占めています。迅速な積極的疫学調査のためにも、麻疹を疑われた際は、早めに福祉保健センターへご相談下さい。



- 2 マラリア: 1 例の報告がありました。三日熱マラリアでした。世界的に耐性マラリアが問題になっていることもあり、必要に応じ、マラリアの治療、診断等国立感染症研究所医療従事者用マラリアウェブをご参考下さい。

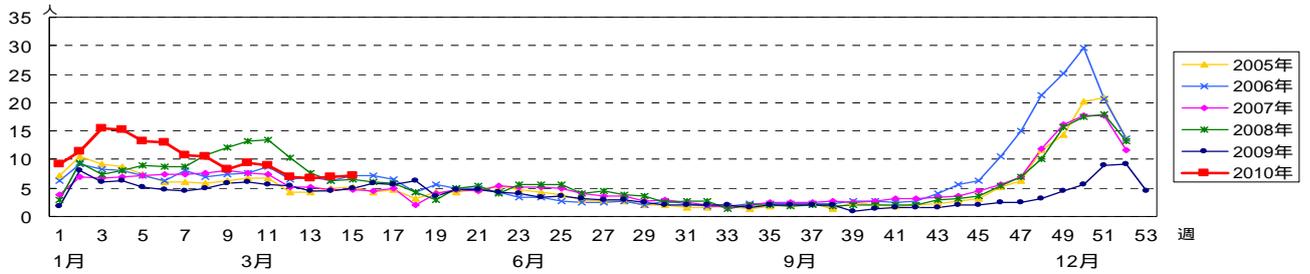
<http://idsc.nih.go.jp/disease/malaria/malariaweb/index.html>

- 3 HIV 感染症: 3 月の追加報告が 5 件ありました。全て男性で、うち 3 件は、同性間性的接触によるものです。全国でも数年来、男性の同性間性的接触での感染が多く見られています。また、5 件とも受診した時には既に AIDS を発病していました。最適な治療のためには、早い時期の診断が望まれます。

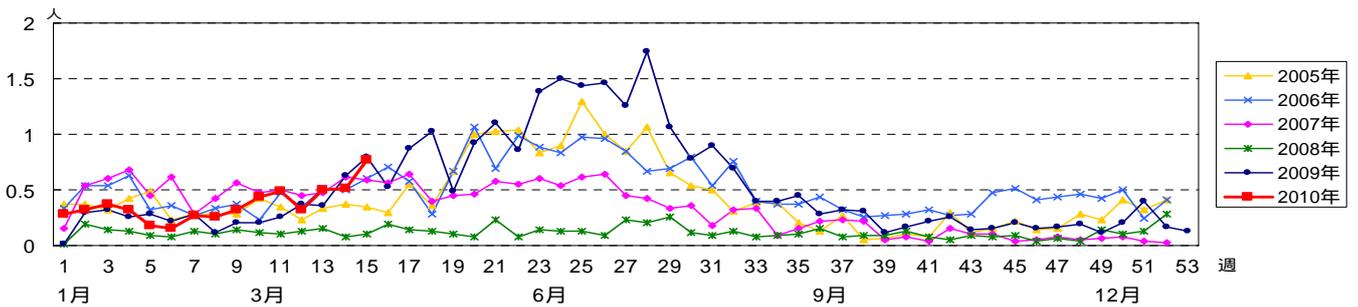
国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/355/tpc355-j.html>

定点把握の対象

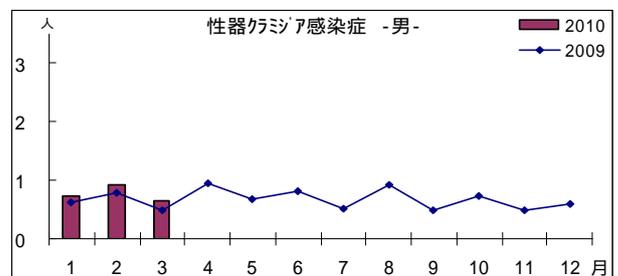
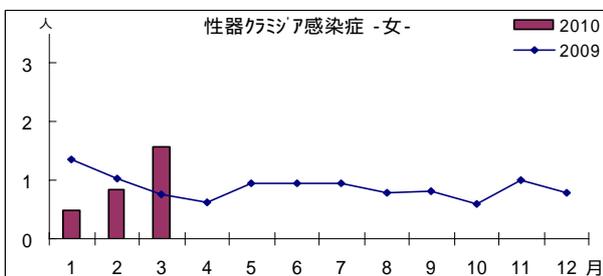
- インフルエンザ:** 第15週は定点当たり0.06と、流行は見られていません。4月に入って、4病原体定点からの5検体に新型インフルエンザが認められています。引き続き耐性等、ウイルスの性状の変異の監視が必要と思われます。第15週の簡易迅速診断キットではA型2件、B型6件でした。
- 手足口病:** 第15週は定点当たり0.18と、流行は見られていません。しかし、市内では4月に入り、エンテロウイルス71(以下EV71)が検出されています。EV71は、過去に死亡例もあり、今後の流行状況の監視が必要です。
横浜市衛研HP <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/handfoot2.html>
- 感染性胃腸炎:** 第15週は定点当たり7.15です。過去5年は12月に流行のピークが見られましたが、今シーズンは1月に入ってから報告増が見られていましたが、例年並みに落ち着いています。全国8.99、神奈川県7.86、東京都8.36です。行政区別では、神奈川区14.50、港南区14.00、磯子区13.67、泉区12.25が高めです。



- 水痘:** 第15週は定点当たり1.72です。全国は1.65、神奈川県1.52、東京都1.40です。行政区別では神奈川区4.50、瀬谷区4.00が高めです。
- 伝染性紅斑:** 第15週は定点当たり0.77です。全国0.26、神奈川県0.72、東京都0.52と何れも横浜市より低い値です。行政区別では、瀬谷区5.50、旭区2.67、泉区2.25が高めです。



- 性感染症:** 性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。3月は性器クラミジア感染症が男性15件、女性36件計51件。性器ヘルペス感染症が、男性6件女性13件計19件。淋菌感染症が男性12件女性1件計13件でした。女性の性器クラミジア感染症は2月の21件に比べると15件増と増えています。



この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>